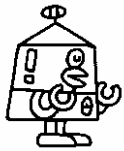


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の発芽と成長 / 理解シート

ゆうきひりょう

有機肥料って、なんなの



工場で作られる化学肥料にたいして、動物や植物の体、
はいせつ物など、^{てんねん}天然の物で作られたのが有機肥料だよ。

昔の肥料は、みんな有機肥料だった

昔から、わらやかれ葉を集めて積み上げ、発こうさせたもの(たい肥^ひ)や、生ごみ、ニワトリやウシや人間のふん、たねなどの油をしぼったかす、小魚や魚粉などが、肥料として使われてきました。これらの肥料の材料になっている物はどれも、自然の中にある植物や動物、それらが作ったもの、ふんなどのはいせつ物などです。このような肥料を、有機肥料とよんでいます。

植物が必要とする成分だけを、化学工場で人工的に作ったり混ぜ^ま合わせたりしたものは化学肥料とよばれ、手軽に使えるため、よく使われています。

有機肥料は、土中の生き物を元気にさせる

どんな植物も、葉やくきが育つのに必要な成分、花や実をつけるのに必要な成分などを、地中から根ですい上げています。土地によっては、ある成分が少ししかふくまれていないことがあります。また、毎年、同じ野菜などを育てると、その野菜に必要な成分が不足してくるため、育ちや実りが悪くなります。そんなとき、必要な成分を肥料としておぎな^まってやりますが、化学肥料を長い間使っていると、土がかたくなってきて、野菜などの成長が悪くなってきます。

有機肥料は、たくさんの土中の小動物やバクテリアが、肥料を食べて^{ぶんかい}分解し、植物が^{きゅうしゅう}吸収しやすいいろいろな成分が混^まじったものに変えるため、土の成分がよくなり、また、土がやわらかく空気や水をよくふくみます。そのため、化学肥料より植物を育てるのによいといわれています。

ごみをへらすため、家で生ごみを肥料に変えているけど、有機肥料を作っていたんだね。

